

平成27年度発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

第2回指導者研修会

倉吉市教育委員会事務局学校教育課

1. 趣 旨           1学期に2回の「MIM-PM」を実施し、児童の実態を把握できた。一人一人のニーズ、理解度を深めるための支援策を探り、2学期からの実践に備えなければならない。
- そこで、2学期からのきめ細かな配慮、セカンドステージ指導についての研修・演習を行い、具体的な授業案・教材・教室環境等について認識を高めることを目的とする。

2. 日 時           平成27年8月21日（金）午後1時～4時45分

3. 会 場           上灘公民館 会議室1

4. 参加者           倉吉市内各小学校より 1年生担任・特別支援教育主任等  
                  鳥取市教育センター、中部教育局、倉吉養護学校、倉吉市子ども家庭課より       26名

5. 内 容

(1) 開会のあいさつ           倉吉市教育委員会学校教育課 課長           山根 操

(2) 講演・演習

「多層指導モデルMIMのセカンドステージ指導について」

講師   西伯郡大山町立大山西小学校           内田 利幸 教諭

・「多層指導モデルMIM」で使われている

1st ステージ（一斉指導で学習内容を理解できる）

2nd ステージ（きめ細かな配慮・少人数指導が望ましい）

3rd ステージ（個別指導・通級指導も視野に入れる）

各ステージに該当する児童の実態を把握し、意欲を持ちながら取り組める教材を準備し、分かりやすい授業を実施する。

・2学期の授業にも、特殊音節のルール・動作化の復習を取り入れ、理解を深める。

・演習を行い、具体的な指導方法・教材を学んだ。

○スクリーンを使い、特殊音節を含む言葉を動作化を交えて読んだり、正しく表記されている番号を示したりし、クラス全員で正しく読む学習を行う。

○視覚的に言葉をとらえるプリント、リレー読みを行い、一人一人の実態を確認しながら指導を行う。



○拗音カードを使ったカルタ取り。意図的なグループ編成を行うことで、教師が声をかけやすいグループを作る。

○拗音バスケット。フルーツバスケットのようにゲームを楽しみながら拗音を考える。

○プリントの裏面を使い、理解力の高い児童も時間いっぱい取り組めるよう工夫する。

○学級だよりでひらがな学習の様子を伝え、児童の作成した問題や授業の様子を紹介する。

### (3) 2学期の取り組みについて

倉吉市教育委員会発達障がい支援アドバイザー 石橋 良江

- ・「MIM-PM」実施の際の注意事項
- ・保護者への理解・啓発について
- ・指導プリント、カード作成データについて

### 6. 参加者の感想より

- 「楽しみながら習得する」ことがすごく大事だと思っています。2学期は、いかに1st ステージ児童が時間を持て余さず過ごすか、2nd ステージ指導の必要な児童への直接指導の時間を作りだすかがポイントだと思いました。
- 2nd ステージの具体的な指導について講義していただき、とてもよく分かりました。色々なネタを教えていただいたので、ドリルタイムや1単位時間を上手に使うって指導していきたいと思います。1年生担任と一緒に教材を作ったり、指導について相談したりしながら子ども達を育てていきたいと思います。
- とても楽しい実践をいくつも紹介していただき、2学期からの読み書き指導の展望が持てました。読み書きの苦手な児童にとって、楽しく学習を進められ、意欲づけにもつながる教材でした。作成して使っていきたいと思います。
- MIMの効果的な指導の仕方を具体的に教えていただき、2学期からの指導に生かしていこうと思いました。自分が児童の立場になって授業を受け、指導のポイントが分かったり、子どもの気持ちを実感したりすることができました。クラス子ども達に、読む力をしっかりつけていこうと思います。
- 楽しく学べる工夫を紹介していただきありがたかったです。体験すると「もっとこうしたい」等考えることができました。
- 色々な教材を見せていただき、実際に演習もしたことで具体的な指導のイメージを持たせていただきました。1学期の指導を通して、読みの獲得と学力や学習意欲は比例していると感じました。スラスラ文字や文章が読めるということは、児童の学習意欲にも大きくかかわってくると思います。MIMの教材や指導法を活用して、読むことに自信が持てる児童を育てていきたいと思います。私自身、2学期へ向けての意欲が高まりました。ありがとうございました。
- 1単位時間を使っての言葉の指導はしていなかったのですが、今日の講義で1時間の流し方が分かりました。ドリルの時間にプリントに取り組んでいたのですが、プリントをして終わり、ということになっていたことを反省しました。どのようにして子ども達が言葉を獲得していくか、今日の講義・演習がヒントになりました。子ども達が楽しみながら言葉を獲得していくよう、紹介されたグッズ等を参考にしたいと思っています。
- 演習は子どもになったつもりで楽しく学習できました。プリントの表裏を使い、「できた人は裏にしりとり等難易度の高いものをする」という手法は個に応じた指導ができ、良い方法だと思いました。優位な児童も力が伸びるので、ぜひやってみたいと思います。「楽しいこと」と「力がつく」ことを兼ね備えたゲームをたくさん教えていただき、ありがとうございました。
- 「MIM」という言葉を知らない職員もまだまだいますので、「職員研修」をして理解者を増やしたいと思います。
- 実際にカルタやリレーなどをしてみて「楽しさ」が分かり、良かったです。「楽しい」「またやりたい」が、子どものやる気には大事だと思います。